

# 幼 兒 の 教 育

昭 和 三 十 一 年 一 月

## 保 育 報 國

斯の時、何を以て皇國に盡さうか。銃後直接の御奉公は言ふまでもない。精神を緊張し生活を緊縮して、心き物きを獻ぐべき途も多い。しかも、「今」の重大と共に、忘るべからざるは「後」の重要である。今のために盡すと共に、後のために盡さなければならぬ。殊に、皇國の將來に立つて今日の聖業を繼ぐもの、すなはち今の幼きものゝ保育の重要さが、常時以上の切實感を以て凝思させられるのである。

今日幼児保育の任に當るもの、一見、豫備隊の豫備隊にあるが如きも、其の平生の職分を以て同じく第一線に動員せられてゐるのである。外觀は嬉遊に閑遊に時を消すが如きも、常きは別な内部の緊張に於て同じく動員せられてゐるのである。

さて更に思ふ。平生は保育のために働いてゐる。斯の時局では、自分のためにさせて貰つてゐる。身を幼児に獻ぐるこみによつて、以て願はくは、この身を皇國に獻ぐるこみの出来るために。